

と思はれます。

(8) 附着強度に對する安全度

之に就いて申しますと、許容附着應力度を5kg/cm²乃至6kg/cm²位に採つて普通の方法で設計した梁の附着強度に對する安全度は、梁の斜張應力破壊に對する安全度に近いものでありまして、附着力に因る破壊は斜引張力に因る破壊と同様急激に起るものでありますから、梁に於ける附着應力の問題はあまり輕視してはならないのであります。

(9) 試験方法

鐵筋とコンクリートとの附着強度を試験する爲には、現今一般に引抜き試験が行はれて居ります。梁に於ける附着強度と、引抜き試験で示さる附着強度との間に相當大きい差のあることは、梁に於けるコンクリートは、引張應力を受けて居るのに、引抜き試験に於けるコンクリートは壓縮應力を受けて居る事だけを考へも當然の事ではありますが、幸なことに今日迄の試験の結果によりますと、梁に於ける附着強度と、引抜き試験で示される附着強度との間には、ほゞ一定の關係があると見

てよい様であります。それで今日の處では引抜き試験で示される附着強度から梁に於ける附着強度を判斷するのが便利であると思はれるのであります。

然し引抜き試験に關する標準方法はまだ出來て居りません。鐵筋コンクリート成立の理由の一つは、鐵筋とコンクリートとの附着強度の大きい事にあるのであります。これ程大切な附着強度を試験する標準方法すら出來て居ないと云ふ事は、一寸考へると實に不思議のことも考へられるのであります。エンジニアリングは大抵こんなものでありますから、附着強度に對してのみそう不思議がるに及ばないと考へるより仕方ないのであります。それで引抜き試験をする時には、鐵筋の直徑コンクリートの強さ、其の他を考慮して試験體の大きさを定め豫備試験を行つて、其の試験體で目的を達する結果が得られる事を判斷してから、ほんとの試験にかゝらなければならぬのであります。極く大體を申せば、鐵筋埋込みの長さは、鐵筋直徑の10倍乃至16倍位が適當の様であります。(以下次號)

日本工學會大會に於ける土木講演題目

工學に關する16學會の連合會たる日本工學會の主催に依る年次學術大講演會の第4回大會は、4月3日より4日の兩日、東京帝大の講堂に於て開催される事となつた。其中で第4部會を占むる土木工學に關する講演題目及講演者氏名の中で、河川港灣に就て見ると次の通である。

河 川	
洪水流に就て	伊 藤 剛
河床洗堀に對する橋脚配置の影響に就て	石 原 藤 次 郎
流砂河川の水利	淺 野 好
砂礫河床模型實驗に就て	安 藝 岐 一
北支の水利	本 莊 秀 一
柳河治水工事に就て	五 十 嵐 眞 作
南滿運河計畫に就て	米 田 正 文
氷雪と河川工事	三 島 卯 四 郎

急流河川に就て	鷲 尾 蟄 龍
木曾川流量調節に就て	三 池 鎮 浪
天龍川改修工事の效果に就て	楠 仙 之 助
港 灣	
大連港に於ける岸壁の構造に就て	鶴 岡 鶴 吉
深海よりのケーソン引き揚げ	天 竺 良 吉
宇野港の浚渫工事	橋 川 保
時局下に於ける岸壁及物揚場護岸構造	江 崎 善 愛
中支港灣に就て	池 田 德 治
地震時擁壁に作用する土壓に關する研究	松 尾 春 雄
仁川港に於ける港灣工事の二、三の問題	福 井 瀨
	(以下次號)